



Woman of YAMAGATA

これからの 「仕事」の 話をしよう



令和元年度 山形大学 基盤共通教育の授業
「キャリア形成とワークライフバランス(山形から考える)」探究ノート

《 講義内容 》

- | | | |
|--------------------|--------|------------------------|
| 01 マルチステージのライフデザイン | 小倉 泰憲 | 学術研究院教授(理学部担当) |
| 02 仕事を持っているからできる | 畔柳 まゆみ | 学術研究院准教授(地域教育文化学部担当) |
| 03 なぜ働くのか、どこで働くのか | 杉野 誠 | 学術研究院准教授(人文社会科学部担当) |
| 04 ベターな選択を繰り返して | 高澤 由美 | 学術研究院助教(理工学研究科担当) |
| 05 今しかできないことがある | 井上 純人 | 医学部附属病院第一内科病院教授 |
| 06 チャレンジする道を選ぶ | 木村 直子 | 学術研究院教授(農学部担当) |
| 07 学びたいと思った時がスタート | 山本 美奈子 | 学術研究院准教授(学士課程基盤教育機構担当) |
| 08 ライフデザインセミナー | 武田 靖子 | (株)ジョインセレモニー常務取締役 |



マルチステージの生き方

10月30日(水) 14:40~16:10

講師

小倉 泰憲

学術研究院教授(理学部担当)

Profile

50歳代
岩手県出身

専門はカウンセリング心理学と音響工学。学生と教員を対象にキャリア支援を行っている。子どもはいないが、音大卒の妻のキャリアを一緒に考えてきた。

● マルチステージのライフデザイン

これまでは「教育」「仕事」「引退」という3段階の生き方・働き方が多く見られた。しかし、これからは「教育」と「仕事」を複数回繰り返す多段階の生き方・働き方になるという説がある。これは私にも当てはまるので、紹介していきたい。

● 第1段階の教育と仕事

秋田大学で電子工学を学び、その後、東北大学大学院で修士・博士の5年間、音響工学を学んだ。28歳で民間企業(関東の警備業)の研究所で技術者として働き始めた。

● 第2段階の教育と仕事

働きながら、産業カウンセラーをめざして心理学を学び、日本キャリア・カウンセリング研究会でNPO活動を開始。キャリア・コンサルタント養成講座の講師を行った。

● 第3段階での教育と仕事

筑波大学社会人大学院で働きながら学び、修士(カウンセリング)の学位とカウンセラーの資格を取得。キャリア開発の普及をめざし、山形大学理学部のキャリア教員に就任。平成23年10月1日、大きな転機が訪れた。前の日まで企業の課長だったが、この日から山形大学の教授になったのだ。関東から山形に住む場所が変わり、仕事内容は技術系の仕事からキャリア支援になるなど、生活も仕事も大きく変化した。

● 学生へのアドバイス

21世紀は技術革新による急激な変化をはじめ、政治・経済の不確実性が増し、今までのような3段階を前提とした長期的な計画は困難な時代になった。また、今の大学生の平均寿命は100歳ぐらいになると予想されている。この二つから言えるのは、長く生きる間に大きな転機が複数回訪れ、多段階の生き方・働き方をすることだ。大学生の皆さんはこれまでとは違うライフデザインと転機への心の準備が必要になる。



① 転職した時に不安はなかったか。社会で働くうえで、学生に求めることは何か。

A 6~7年前から考えていたので不安はなかった。実社会では日本社会特有の世間という考え方が根強い。社会に染まり過ぎず、個性を出していくことが大切。

講義の振り返り

人生100年時代になる中、今までと働き方・生き方が変化していくということを改めて考えさせられた。2~3回の転職を行うことになるが、働きながら自分のやりたいこと勉強し、新しい仕事に就くことは、大変ではあるがとても興味深いものだと感じた。

今までは、キャリア形成と聞くと、一度しかないから失敗できないと緊張していたが、多段階に分けて考えると、失敗しても次につなげていけばいいと前向きに考えることができた。これからのために、興味をもったことや講義に積極的に取組みたい。

世間という日本独特の考え方のために生きづらいつ感じるが、自分らしく生きたい。この講義を受けて、個性を生かして、人生100年時代を乗り越えていきたいと思った。

今回の講話で、キャリアというものは、人生の中で変わり続けること、さらに学びが続くことだということがわかった。先生の人生はとても波瀾万丈だと思ったが、転職という行為の意味が先生の講義のお蔭で分かった気がする。

仕事を持っているからこそできる

11月6日(水) 14:40~16:10

講師

畔柳 まゆみ

学術研究院准教授(地域教育文化学部担当)

Profile

50歳代
山形県出身

山形県内小学校養護教諭として28年間勤務。その後、山形県立特別支援学校教頭を経て、2018年4月より本職。専門は養護実践、健康相談活動。組織心理学。

● 就職した動機と仕事の内容

28年間小学校養護教諭、その後行政機関、特別支援学校管理職を経て、これまでの経験を生かし「学校(子ども)を護るかなめ」である養護教諭養成に携わる仕事に身を置くことを希望した。

● これまでの道のり

28年間小学校の養護教諭、その後教育庁で養護教諭指導主事、そして特別支援学校教頭を経て現在に至る。その間、山形大学大学院教育学研究科にて修士を取得、家族相談士認定

● ワーク・ライフ・バランス

〈悩み・苦勞〉三世同居家庭における就労と子育て・・・古典的性別分業観、少子良育・過保護的養育態度

〈喜び・工夫〉いい嫁をやめる、仕事における自己実現、自己コントロール

● 夢や目標

「学校(子ども)を護るかなめ」となる、ステキな養護教諭を養成していくこと

● 学生へのアドバイス

次代を担う子どもたちがよりよく育つ土台となる家族、社会を創るための知識と知恵を学び実現していきましょう。

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画社会を考える

いくつになっても自分の夢をもちその実現を目指し、パートナーと共に成長できることが子どもが育つ条件をつくることにつながる。

「仕事を持っているからできない」から「仕事を持っているからできる」発想の転換を!



❶ 仕事を持っているからできることは例えば何か。理想の家族はどんな家族か。

A 家庭で何かいやなことがあっても仕事で気分転換できること。複数の役割を担うことが大切。家族がほっとすることができ、パートナーが太いパイプで結ばれている家族。

講義の振り返り

📖 三世同居が日本で一番多い山形県で実際に体験して苦勞され、その制限の中でやりたいことをやろうという考え方で、仕事と家庭を両立させてこられたことがすごいことだと思った。

📖 複数の役割を持つことで、精神的な健康を高め、どちらかでいやなことがあってももう一方で気分転換するなど、自分にとってプラスになることが多いことがわかった。

📖 夫婦の満足度は、子どもが生まれると徐々に下がっていくということがわかった。その原因は、夫が育児に関わらないことによるものなので、男性の育児への関心や、育児休暇を取りやすい社会というものが重要になってくると考えた。

📖 仕事の帰宅時間に制限を設けることで、仕事の効率や段取りをする力、精進力を上げたというところ、複数の役割を担うことが活性化させ、精神的健康高めるという点に非常に納得した。

なぜ働くのか、どこで働くのか

11月27日(水) 14:40~16:10

講師

杉野 誠

学術研究院准教授(人文社会科学部担当)

Profile

40歳代
大阪出身

専門は環境経済学。地球温暖化対策の制度設計に関する経済分析を行っている。静岡生まれ、アメリカ育ち。鎌倉市から6年前に移住。家族は妻と子ども二人。

● 就職した動機と仕事の内容

大学に入学し、将来何をしたいのかが全く分からなくなった。しかし2年生になり、一般教養の経済学科目を受講し、「もっと経済学を知りたい。研究してみたい。」と思うようになった。その後、大学院に進学し、大学教員になりたい気持ちが強くなった。仕事は、授業・研究・学務が主な内容。

● これまでの道のり

友人とは違って、興味を持った分野を納得がいくまで追求したいと考えてきた。そのため、授業の多くは1人で履修することが多かった。また、回り道を歩んだりして、色々な人生経験を積むように心がけてきた。今の状況(大学教員)がその結果だと思っている。

● ワーク・ライフ・バランス

アメリカで幼児期を過ごしたことで、「家庭ファースト」を掲げている。家庭や子供との時間を最大限とるようにしているが、学会シーズンや研究の大詰め(論文の執筆)などでは、家庭を犠牲にしている。特に、育児に関して悩んでいる。例えば、子供の勉強や小さいときにしかできない体験などを思うようにさせてあげられていないこと。

● 夢や目標

最近、家族の要望により、新築一戸建てを購入した。家族がいつまでも笑顔と笑いが絶えないようにすることが当面の目標。具体的には、35年ローンの返済(笑)。また、夢は猫と犬を迎え入れること(妻と娘の夢でもある)。

● 学生へのアドバイス

終身雇用制度や非正規雇用など、雇用状況が大きく変化している。そのため、「安定志向」になることは理解できる。しかし、一度しかない人生なので、若いときには冒険・チャレンジをすることが大事だと思う。失敗してもその経験を生かし、日々成長することが100歳時代を生きる道だと思う。成長には、努力が欠かせない。「千里の道も一歩から」。



① どのようにしたら女性の働き方に対する男性の理解が進むと思うか。

A 女性との違いはあるが、男性がいろいろと体験してみることが大切だと思う。家庭でもまず体験してみること。女性の育児の大変さを知ることができる。

講義の振り返り

📖 子どもが生まれた後に家族の幸せのためなら自己犠牲を惜しまないという考えに変わった、という点が印象に残った。仕事を決める上で、「なぜ働くのか」、「どこで働くのか」という価値観を大切にしていきたいと思った。

📖 働く環境にも気を配ることが大切だと感じた。自分、両親、妻や子のために、自分の人生をコントロールできるかで時間の使い方が左右される。

📖 アメリカと日本の両方で暮らしたことで、文化の違いや挫折を経験し、それが今につながっていると聞き、興味が持てない分野でも挑戦してみることが将来のために必要だと感じた。女性の生き方に対して、男性の理解がもっと必要だという意見に同感した。

📖 この講義を通して、「山形で働くのもいいな」と思った。子どもの気持ちや子どもとの時間、自然環境などを考えると、山形は子育てにうってつけだと感じた。

ベターな選択を繰り返して

12月4日(水) 14:40~16:10

講師

高澤 由美

学術研究院助教(理工学研究科担当)

Profile

40歳代
秋田県出身

専門は都市計画、地域政策。サステイナブルな地域づくりについて、景観や観光、ネットワーク形成など多様なアプローチで研究活動を行う。家族は夫と子ども二人。

● 就職した動機と仕事の内容

大学は幅広く様々なことにチャレンジできる場だと思う。そこに魅力を感じてアカデミックの世界で働きたいと思うようになった。

山形大学(大学院ものづくり技術経営学専攻、学部建築・デザイン学科担当)で教育・研究、及び社会貢献活動に従事。

● これまでの道のり

博士課程以降は将来に対する不確定要素が多かったため、長期的なプランを計画することは難しい状況にあった。思い返すとその時々ベストorベターと思われる選択を繰り返してきた結果、現在に至っている。

● ワーク・ライフ・バランス

現在は子育て中でライフの時間を優先する場面が多い。でもワーク(調査・研究)の時間も増やしたいのが本音で悩ましいところ。限られた時間でいかにパフォーマンスを高められるかが課題である。そのために体調管理(家族も含めて)、感情管理(!)、環境整備を日々試行錯誤中。

● 夢や目標

持続可能で豊かさを感じられる社会づくりに研究・教育を通して貢献すること

● 学生へのアドバイス

居心地の良いところから抜け出して新しい場所に飛び出す勇気を!いろいろなことにチャレンジしてほしい。自分をマネジメントすることを意識してトレーニングを若い頃から心がけていれば、将来のワーク・ライフ・バランスに役立つと思う。

*本の紹介:「タイム・バインド~働く母親のワーク・ライフ・バランス」ホックシールド他、「仕事と家庭は両立できない?」アン＝マリー・スローター、「結婚と家族のこれから~共働き社会の限界」筒井淳也



Q 両立で大変なことは何か。自分をどのようにマネジメントしているのか。

A 時間の確保と子どものケア、そのための手配が大変なこと。短期的には時間を決めて行動、スキマ時間の活用など。長期的には時間があるときに10年分の予定を書き出している。

講義の振り返り

📖 最も印象に残ったのは、「短期マネジメントと長期マネジメント」というワードだった。仕事と家庭を両立し、忙しい毎日過ごす中で、効率よく自分のタスクをこなす、ライフスタイルを組み立てていく方法に辿り着かれたのかと思った。

📖 親に「女は大学に行く必要がない」と言われても自力で大学・大学院に進学したり、夫の転勤に合わせて転職したり、様々な困難を自分自身で乗り越えて、とてもパワフルな先生だと思った。本当に研究が好きなんだと感じた。

📖 人とのつながりや仲間にも恵まれ、運や偶然と巡り合わせ、しっかりチャンスに成功に結び付けられていてすごいと思った。

📖 将来、妻が仕事を続けたいと考えていたら応援しようと思っていたが、まだ考えが足りないことに気付いた。自分の仕事の都合で転勤することなどを想定していなかった。どのように妻をサポートすればよいのか、よく考えていきたい。

今しかできないことがある

12月11日(水) 14:40~16:10

講師

井上 純人

医学部附属病院第一内科病院教授

Profile

40歳代
埼玉県出身

呼吸器内科医長として診療、研究、教育を行う。2010年、2013年医学部ベストティーチャー最優秀賞、2014年山形大学優秀教員賞受賞。日本呼吸器学会男女共同参画委員。

● 就職した動機と仕事の内容

学問、科学が人のために、特に命を救う学問であることが医学を志した動機である。日々新しい医学情報が更新され、常に学び、進歩していくことができる。呼吸器内科疾患患者の診療と共に、基礎的・臨床的研究、後進の教育に携わっている。

● これまでの道のり

求められている仕事、必要とされる仕事に従事してきたが、その中に自分の興味関心がある仕事を取り入れ、診療だけでなく、研究や教育にかかわる部門でも仕事をしてきた。2001年に医学博士を取得、2005年から2007年は米国へ研究留学をした。

● ワーク・ライフ・バランス

医師という職業は他の職業と比較しても激務と言われ、自分で仕事の質や量をコントロールすることは困難な場合もある。人の生命に直結する分野であるものの、スタッフの努力によって支えられているところがある。その中でも人の命を助ける仕事としてのやりがい、研究による新しい発見や学び、教育による人材の育成は大きな喜びがある。

● 夢や目標

自分一人の力では助けられる患者の数には限りがあるが、自分の教育が後進の成長に少しでも役に立てば、より多くの患者を救うことができると考えている。

● 学生へのアドバイス

人間万事塞翁が馬

今しかできないことがある

● 「山形の女性の働き方」から男女共同参画社会を考える

男性だから、女性だからではなく、働く人、頑張る人が報われる社会であり、誰もが自分のできる範囲で社会、家庭に参加していくことが重要と考える。



① 学生のうちにしかできないことは、例えば何か。

A 大学でしかできないことはたくさんある。サークル活動など、真剣に何かに取り組んでほしい。

講義の振り返り

「今を大事にすること」「何かを好きになること」がためになった。先生は自身の苦勞や医師を取り巻く状況を踏まえて、若いときにしかできないことをしようと仰っていた。私は今やりたいことがなく、自分に深く突き刺さった。

普段、私たちがハイクオリティな医療を低価格で受けることができるのは、お医者さんのとてつもない労働のお蔭であったことを知り、感謝と申し訳ない気持ちになった。今、社会では働き方改革と言われているが、一刻も早く改善してほしい。

医師の激務をこなす上での工夫として、飯をしっかりと食べる、休めるときに休む、他の人に助けて貰うということをお聞きしたが、自分も取り入れていきたい。

医師はワークライフバランスを取るのが難しく、国の改革によって改善が必要だと考えた。また、患者である私たちの理解も大切であり、男女の医師が働きやすくなるように皆が協力すべきだと思った。

チャレンジする道を選ぶ

12月18日(水) 14:40~16:10

講師

木村 直子

学術研究院教授(農学部担当)

Profile

50歳代
青森県出身

農学部卒→食品会社へ就職(研究所勤務)→大学院博士課程→任期付き研究員→大学教員で、現在に至る。専門は、動物生殖学、動物生殖工学。

● 就職した動機と仕事の内容

学部卒業後、民間企業の研究所で6年間働き、色々考えることがあった。学位取得後は、研究者と教育者の両輪の道を選んだ。企業研究所内で、動物バイオテクノロジーの研究室に配属され、発生途中のウシの小さな受精卵を顕微鏡で眺めていたら、命を繋ぐ配偶子や受精卵を扱う動物生殖学ハマった。

● これまでの道のり

学部4年生時は、これ以上学びたいとは全く思わなかった。4年間、学業はそこそこで、サークル、友達との交流、バイトなどやりたいことを一通り経験でき、もうお腹一杯だったので、いい加減にちゃんと働こうと自然に思えた。働いて得た収入で、海外にたくさん行ってみたかった。就職先の見学に行ったら、なんとなく雰囲気がよくて、たまたま受かったので決めた。

農学部卒 → 食品会社へ就職(研究所勤務) → 大学院博士課程 → 任期付き研究員 → 大学教員で、現在に至る。自分が大学教員に向いているのか、未だにわからない。16年間続けて来れた事実を信じるしかない？

● ワーク・ライフ・バランス

気が付いたら、ワークがほぼライフになっている？特に何も感じない。ただし年齢とともに体力は低下する。体力が気力を支えるので、健康体でいる工夫は必要。

● 夢や目標

仕事の目標:主担当の卒論生・修論生を100人以上出す。彼らが50代になっても生き生きと働く姿、活躍する姿を見届けたい。学生には、卒業後20年間は折れない逞しいスピリッツを植え付けたい。

個人の夢:今は第2の人生真ただ中。第3の人生は小さくても自分で何か事業を始めてみたい。ヨレヨレになっても現役で歩き回りたい。ワークをライフにしちゃう人生って、それはそれで幸せじゃない？



Q 研究者になりたいと思っている学生へのアドバイスは何か。

A 研究を職業とする決意が必要。諦めないことが大切。研究している時は楽しい訳ではないが、続けてこられたのは好きだからだと思う。

講義の振り返り

「二つの道があったら、チャレンジする道を」、「諦めない限り、全てのことは成功のためのプロセスであり、諦めれば失敗になる」ということを伺い、自分もチャレンジして結果が出るまでやり続けようと思った。

私は漠然と研究者になりたいと考えていたが、研究者の中でもいろいろな種類があり、問題もあることが知り、もう一度真剣に考えようと思った。進路選択するときは自分の心に従って、自分の意志で決めようと思った。

人生は取捨選択の連続であるということが印象に残った。先生は、企業から大学院進学という道を選択され、「辞めたのだからやるしかない」と突き詰めていく姿が素晴らしいと思った。

研究者を続けていくには決意が必要だと伺い、曖昧な考えではなく、本当にやりたいことを見つけ、それを叶えるためにどうすればよいか考えたいと思った。

学びたいと思った時がスタート

1月15日(水) 14:40~16:10

講師

山本 美奈子

学術研究院准教授(学士課程基盤教育機構担当)

Profile

50歳代
石川県出身

専門はキャリア心理学、組織心理学。キャリアデザインやインターンシップの授業を担当。結婚し、子供を育て仕事と両立しながら大学院に進学、学位を取得。

●就職した動機と仕事の内容

自分が歩んできたキャリアが「どのように生きるのか」「どのように働くのか」「どのように学ぶのか」であり、山形大学のキャリア教育の基本的考え方と合致していた。授業は、自己理解(キャリアデザイン)、仕事理解(キャリアデザイン)、理論(キャリアデザイン)、フィールドワーカー山形の企業の魅力(プレインターンシップ)、仕事の流儀~プロから学ぶ仕事のやりがい~、スタートアップセミナー、みずから学ぶ、を担当。キャリアカウンセリングは、小白川キャリアサポートセンターで担当。

●これまでの道のり

20代前半に看護師として集中治療室に勤務し、「死」と直面したことをきっかけに自分らしく生きたいと考えるようになった。その後の市役所勤務では、職員の健康管理に携わりどのように働くのかを支援するなかで、私自身は「どのように働いていくのか」「どのように生きていくのか」を考えた。その問いに対する答えを求めて、子育てと仕事を両立しながら、大学院に進学。大学院で研究の面白さに気づき、研究者を選択した。

●ワーク・ライフ・バランス

山形に単身赴任し、生活環境が大きく変化した。初めて200名以上の大規模授業を担当し悪戦苦闘してきたが、学生から学ぶことが多い。夫に理解と協力を求めながら、子育てと仕事を両立し大学院で学んできた。その子供達は現在青年期に入り自分を確立し自立(自律)しつつあり、家族との関係性も変化した。

●夢や目標

新たな環境で、授業、研究、キャリアカウンセリングなどに最善を尽くすこと。

●学生へのアドバイス

体験から学ぶことが多い。話たり行動することで、捉え方や感じ方が変化し、自分の可能性が広がる。いくつになっても学び続けることができるし、学びたいと思った時がスタートで、終わりはない。既成概念に捉われないことが、自分のキャリアデザインを考えるうえで重要。



① 子育てと仕事と大学院を両立することへの不安、工夫したことは何か。

A 不安だったが、4年で卒業する計画で、仲間がいたから頑張れた。家庭での普段の生活を変えず、朝4時~7時の3時間は勉強に使い、旅行に行っても必ずやった。

講義の振り返り

山形の女性は力強くパワーがあるとおっしゃっていたが、先生もパワーと信念をお持ちだと思った。自分は挫折するとすぐに諦めてしまうが、解決方法を何としても見つけてこられた先生を見習いたい。

キャリアを築いていくために、やはり色々なことに参加したり、自己分析をしたりすればいいと感じた。今からボランティアなどいろいろな体験をして、自分の好きなことや趣味から自己分析し、情報を集め、自分の将来のキャリアを築けるようにしたい。

仕事をしながらでも大学院で学ぶことができ、本当に学びたいことができたなら学びえる方法を心理学で学ぶことができるということに興味を持った。

キャリアに関する理論の中で、「ライフ・キャリア・レインボー」「心の本質的欲求理論」が分かりやすく参考になった。

ライフデザインセミナー

10月23日(水) 14:40~16:10

講師

武田 靖子

(株)ジョインセレモニー常務取締役

Profile

40歳代
山形市出身

常務取締役として、社員教育やパレスグランデールでブライダルの仕事の他、山形県教育委員、イクメンを応援する活動、さらに企業の女性活躍支援などに積極的に取り組む。家族は夫と子ども2人。山形市在住。

● ライフデザインセミナー事業

結婚や子育てを含めて、自らの将来について考える機会を持ち、若いときから結婚観・家庭観の醸成を図るセミナーを、山形県が平成25年度から各学校に専任講師を派遣し実施している。

講師の武田氏には、この授業の講師を平成29年度にも担当いただいている。ご自身の体験を交え、統計資料などを活用して講義していただき、大学生が関心を持って参加できた。



● 日程

- 14:40~15:30 講演
- 15:30~15:35 休憩
- 15:35~16:05 ワークショップ
- 16:05~16:10 アンケート記入

● 事後アンケート

- ☆結婚したい 74% (女70% 男85%)
- ☆子どもを持ちたい 71% (女70% 男81%)
- ☆仕事をやめないで子育て 80% (女70% 男81%)
- ☆ライフデザインは大切 97% (女90% 男100%)

10年後の「なりたい自分」は？

	仕事	結婚 パートナー シップ	子ども
持っている			
持っていない			

結婚も子どもを持つことも「当たり前」ではない時代。自分はどれを選ぶか、「なりたい自分」について考えて、○をつけてみて。



講義の振り返り

📖 将来のライフデザインを考えるととてもよい機会となり、様々な知識を得ることができた。パートナーだから言わなくても全部伝わるとするのは誤りだというのは本当にそうだと思った。パートナーをしっかりと一人の人間として大切にしていきたい。

📖 それぞれの人間の主体的な選択が重要な時代が現代であり、現代社会で生きていくためには、自分で考えて行動を起こすことが大切だということが分かった。男性が家事を手伝う割合を高めていくことを後押しすることが、プラスな方向に働くと感じた。

📖 実際にパートナーにして欲しいこと、して欲しくないこと、してあげたいことを書くことで、理想の相手像を知ることが出来てよかった。

📖 ライフデザインを考えるにあたって、『僕の親はどうしていただろう？』と回想しながら考えていたように、子供というのは親を見て育つんだなと思った。子供に常に見られているという自覚を持ちながら、温かい家庭を将来築けたらいいなと思った。



山形大学男女共同参画基本計画(第2次)の策定

山形大学は、山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を策定し、令和2年4月より施行します。計画期間は令和11年度までの10年間です。これまでの10年間の成果や昨年度実施した「男女共同参画に係るアンケート調査」結果を踏まえ、また我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティを一層進することを目的に、基本方針及び具体的施策を策定しました。

主な変更点としては、目的にダイバーシティの推進を加え、女性教員比率などに関するより高い数値目標、無意識のバイアスのチェック、性的指向・性自認の配慮などを明記しました。県内外の大学や地域との連携も一層推進していきます。



探究学習で学ぶキャリア形成

【授業名】

山形大学 基盤共通教育

「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス (山形大学から学ぶ)」

【授業の目的】

- ①ワークライフバランスについて考え、自分のキャリア・ビジョンを描く。
- ②男女共同参画社会を理解し、課題を考える。
- ③新聞学習で社会人基礎力を身につける。

【授業の計画】

- ゲスト講師の授業は、講義、質疑、まとめで構成。
講師への事前連絡・進行・質疑などを学生が担当。
- グループごとに課題探究学習を行う。
- 新聞切抜きレポートに取り組む。
- 小白川キャンパス保育所の見学学習。

【学生の感想】

- ★人生100年時代になる中、今までと働き方・生き方が変化していくことを改めて考えさせられた。
- ☆三世同居が日本で一番多い山形県での体験談を聞き、メリット・デメリットや家族の役割について学ぶことができた。自分の将来や共働きで大切なことについて考えることができ、良い機会になった。
- ★仕事を決める上で、「なぜ働くのか」、「どこで働くのか」という価値観を大切にしていきたいと思った。山形は子育てにうってつけだと感じ、山形で働くのもいいなと思った。
- ☆新聞の大切さを知り、新聞レポートを通して大事な情報を得ることができた。

男女共同参画とは

「男女共同参画社会基本法」

(平成十一年六月二十三日法律第七十八号)

第一章総則(目的) 第一条

- ・男女の人権の尊重
- ・社会経済情勢の変化に対応できる豊かで活力ある社会を実現する緊要性
- ・基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務
- ・施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」の理念に基づき、男女共同参画のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画基本計画」(平成22年)を策定し、男女共同参画を推進してきました。令和2年度から第2次基本計画に従って、さらに充実した取組を進めていきます。

性別にかかわらずに、すべての人が個性と能力を発揮できる世の中がダイバーシティ社会です。我が国では男女共同参画基本計画や科学技術基本計画等の下、男女共同参画や教育分野におけるダイバーシティ推進を図っています。山形大学は平成27年度に文部科学省のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に採択され、米沢栄養大学、大日本印刷株式会社研究開発センターと連携し、ダイバーシティ環境の実現をめざしています。

この「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」の授業は、男女共同参画を担う次世代を応援するため、男女共同参画推進室が担当しています。

令和2年3月25日発行

発行 山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL 023-628-4937

Mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

編集 准教授 井上榮子